

言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (安芸高田市立向原小学校)

- ① 教科等 音楽科
- ② 学年 第3学年
- ③ 題材名 せんりつのとくちょうをかんじとろう
- ④ 本時の目標 旋律の動きやリズムを生かし、思いや意図をもって「山のポルカ」をリコーダーで演奏する。
- ⑤ 学習の流れ (4時間目/全4時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)												
1 「山のポルカ」の階名唱をする。 2 リコーダーでアとイの旋律を演奏する。 3 本時のめあてを確認し、範奏を聴いて演奏のイメージをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習した、細かい音の前半部アとゆったりとした後半部イの旋律の特徴について想起させる。 ・リズム打ち→リズム打ちをしながら階名唱→運指の確認→タンギング唱→リコーダー奏の順で指導する。 													
	<p>アとイのせんりつのがいを生かして、リコーダーのふき方を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アとイのそれぞれの部分で、どんな「音色」「リズム」「フレーズ」感で演奏していたか気づきを発表させ、板書する。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">ア</td> <td style="text-align: center;">イ</td> </tr> <tr> <td>音色 …</td> <td>明るい</td> <td>きれいな・太い・厚い</td> </tr> <tr> <td>リズム …</td> <td>軽い・短い</td> <td>たっぶり・ゆったり</td> </tr> <tr> <td>フレーズ…</td> <td>切って</td> <td>つなげて・音をたもって</td> </tr> </table>		ア	イ	音色 …	明るい	きれいな・太い・厚い	リズム …	軽い・短い	たっぶり・ゆったり	フレーズ…	切って	つなげて・音をたもって	
	ア	イ												
音色 …	明るい	きれいな・太い・厚い												
リズム …	軽い・短い	たっぶり・ゆったり												
フレーズ…	切って	つなげて・音をたもって												
4 アとイの旋律に合う演奏の仕方を考えながら個人で表現の工夫をする。 5 個人の工夫をグループで交流しながらよりよい表現に高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・板書した気づきを実現させるための演奏の仕方について試行錯誤させる。 ・個人の表現意図と演奏の仕方を言葉で伝えながら、リコーダーで実際に演奏して確かめ合うようにさせる。 (例) 「アの旋律では、8分音符のリズムを生かして、細やかな動きのタンギングをすると軽い感じが表現できるからやってみよう」「イの旋律では、2分音符のリズムを生かして、息つぎ前の音を丁寧なふいたり、4小節を一息でふいたりすると、なめらかな感じが出るよ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「山のポルカ」の曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 〔音楽表現の創意工夫〕 (演奏の聴取・発言内容・ワークシート) 												
6 グループごとに全曲を通して演奏する。 7 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・アとイのそれぞれの表現の工夫を伝えた上で演奏させる。 ・グループで工夫した点について、「こんな音(表現意図)を出すためにこんな工夫(演奏の仕方)をした」と具体的に記述させる。 													

〔言語活動の充実〕

設定した言語活動を通して育てたい力

- 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏することができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- 思いや意図を関わらせた表現となるために「教材曲の旋律の特徴の中から表現したい感じを選ぶ」「選んだ表現に近づけるように奏法の工夫を決める」など、学習の手順を示す。
- 演奏の仕方を試しながら話し合うことができる場を設定する。